



ふるさとの水と土をいつまでも大切に！  
**第14回 大師の里メダカまつり 開催**

～水土里ネット立梅用水が後援～



コンサート風景

平成21年9月20日(日)多気町丹生の大師の里「メダカ池」において、ふるさとの水と土をいつまでも大切に！をテーマに第14回大師の里メダカまつりが行われ、水土里ネット立梅用水が後援した。

当日は秋晴れのもと汗ばむ陽気であったが、町内外からおおよそ1,000人も家族連れ、カップル、友達どうしが絶え間なく訪れ、終日賑わいをみせていた。

ホテイアオイが咲き誇るメダカ池で行われた「田んぼのコンサート」では、近隣地域で活躍する5組のアマチュア

バンドが特設ステージに代わる代わる立ち、日頃の成果を披露していた。散策を終えた人たちは心地よい風が吹き抜ける木陰にたたずんだり、ベンチに腰をおろしたりし、熱心に聞き入っていた。中には、歌に合わせて手拍子を打ったり、口ずさんだりして楽しんでいる人もいた。

コンサートの合間には、立梅用水に関する「田んぼのクイズ」が実施され、正解者には事務局より「彦左衛門のうまい米」「しいたげせんべい」等がプレゼントされるとあって、我劣らじと拳手し、正解する毎に盛り上がっていた。

また、メダカ池周辺には相可高校食物調理科の学生による手作りのお菓子、五平餅の模擬店や竹細工作り、似顔絵、メダカの俳句などのブースが設けられた。

特に竹細工のブースでは、子供たちが思い思いに気に入ったものを選び、悪戦苦闘しつつ出来上がるごとに大きな歓声を上げていた。

午後からの観察会では、メダカ・ヤゴ・タガメの大物賞があり、さらにメダカが持ち帰れるとあって、小さな子どもから大人までがタモや小さなバケツを持って、一斉にメダカ池周辺に集まり、遊歩道や田んぼのあぜから水面に目を凝らし、タモで必死になってすくっていた。捕獲した生き物は指導員のもと、その生態を調べたり、大きさを競ったりし、農村のビオトープ体験を満喫していた。

主催者は、このイベントを通じ水や土の大切さにおおきな関心が寄せられ、今後も地域交流の場を提供し、生態系保全に努めていきたいと抱負を語っていた。



ビオトープでの生き物観察会



生き物を観察する家族連れ



## 水土里ネット神田、水土里ネットタケルが参画 東員町農業商工祭 開催



来場者を出迎えるかかし



水土里ネットタケルのブース



水土里ネット神田のブース



会場ゲート

去る11月15日(日)に東員町スポーツ公園陸上競技場で東員町農業商工祭が開催され、大勢の来場者で賑わった。

会場ゲートをくぐれば、水土里ネット神田による農業・農村が持つ多面的機能を紹介したパネルが展示され、さらに役員の方々が趣向を凝らして作ったかかし「横綱神田山」、「イナバウアー」などが出迎え、会場に向かう来場者の目を惹きつけていた。

会場内のブースでは、揃いの法被・スタッフジャンパーを着た役員、職員の皆さんが土地改良区の実称である「水土里ネット」ののぼりを目印に立ち寄る来場者に受益地内で収穫されたキャベツ、白菜等を提供していた。

一方、会場の入口付近に設営された水土里ネットタケルのブースには会場内へ向かう来場者が絶え間なく立ち寄っていた。ブース内では環境教育・農業体験を目的とした「めだかの学校」で放流されているメダカが展示され、水槽内で元気に泳ぎ回るメダカに子供たちが熱心に動きを見入っていた。さらに、組合員が作った環境にやさしく、マイナスイオン効果により空気をリフレッシュさせる花炭や竹炭、受益地内中上地区の特産品である梅幸あられなどが提供されていた。

どちらの水土里ネットも、地域の自然や文化を守り、都市と農村の交流を図るために今後もいろいろな企画を考えていきたいという夢を抱いていた。